

第1回懇談会、検討会における 意見の概要

2023年1月
農林水産省・国土交通省

1. 政府出展の意義・理念・テーマ について



意見の概要及び対応方針について

意義（案）について

- ・「イベント・オリエンテッド・ポリシー」が重要。
- ・国民が国を見つめなおす機会にしていいただきたい。
- ・1990年大阪花博は景気が良かったが、今回はそうではない。**時代背景を踏まえたエッセンスが示せるような政府出展**にしていければ良い。
- ・「里山は良かった」という懐古主義ではなく、**現在の危機をもっと意識したものを前提とした方が良い。**

- ・スクラップ&ビルドではなく、レガシーとして何を残していくか、分配していくかを念頭に議論を進めることが重要。**循環のイメージが博覧会を開催しながらも見えれば、新しい時代の博覧会ということが伝わる**のではないかと。
- ・**サステナビリティを前面に打ち出せるように**してほしい。

- ・現在の多様化、複雑化する社会課題に対して、日本の自然観を見直しつつ、みどりを活用した解決策を提示することとしており、こうした展示を通じ、来場者が気づきを得て、日々の暮らしでの行動変容を促す機会としたい。
(基本計画の意義への反映を検討)

- ・意義に加え、整備面・運営面の両方でサステナビリティに配慮することを目指す。
- ・整備面では、博覧会のレガシーとして、転用等の有効利用を図ることを検討する。
- ・運営面では、持続性や資源循環を踏まえたものとなるよう検討を進める。
(基本計画の意義、空間計画、運営計画への反映を検討)

意見の概要及び対応方針について

理念（案）について

・「**自給、自尊、自立**」という理念があると良い。

・農業は国の存立基盤であり、国民が自給するということがまずあるべき。花や植木を育てることを含め、**国民の自給への概念をおおいに高める博覧会であってほしい。**

（自給）

・我が国の人々と植物との関わりの歴史、文化、伝統、積み上げてきた技術、知識、価値観、美意識までを振り返るような政府出展にしていきたい。（自尊）

・すべての生き物と「とも生み」をしてきた**日本人の自然観を取り戻し、地域の自立と、それを支える生産者、技術者等がその営みを続けることで国土を未来に継承できる。国土全体に光が当たる政府出展にしていきたい。**（自立）

・今日のサプライチェーンなど、**複雑な世の中の構造はデジタルでしか表現できない。**本博覧会はそれを国民にご理解いただくには良い機会。

・意義の部分で、農業と食糧安全保障の重要性に触れるとともに、来場者の気づきにより、花や緑を育てることが実践されることを促す政府出展となるよう検討する。

（基本計画の意義、レガシー計画への反映を検討）

・政府出展の理念に、「日本の暮らしを支えてきた自然観の見つめ直し」を掲げることを検討（基本計画の理念への反映を検討）

・政府出展に際し、多様な主体の参加・交流・連携を検討していく。（基本計画の理念、レガシー計画への反映を検討）

・現物の展示では理解しにくい、体感できないようなものは、デジタルでの表現を検討する。

（展示計画への反映を検討）

■ 意見の概要及び対応方針について

理念（案）について

・「日本の暮らしを支えてきた自然観の再評価」とあるが、「見直し」ではないか。この見直しというのは、自然に責任を持つということに当たる。そういう段階に来ていることを、政府出展の理念にするべき。

- ・ 「再評価」の部分については、「見直す」、「見つめ直す」、「再認識」などが考えられ、委員の皆様のご意見を賜りたい。
（第2回政府出展懇談会で議論）

・「自然と人・社会との関係性の最適解」の部分について、政府出展を国交省と農水省が担当するのであれば、調整区域の線引きがどうあるべきか、縮減社会における、そういった接点部分の見せ方が、今回のモデル的な議論の中でできたらと思っている。

- ・ 調整区域の線引きをはじめ、両省の施策の接点は複数考えられることから、同一の理念の下、各省の政策メッセージを融合した出展となるように検討していく。

・最適解の部分は「構築する」等のわかりやすい表現にしてもらいたい。

- ・ 「最適解」を「再構築」、「あるべき姿を構築する方法」「再デザイン」等の表現とするなどが考えられ、委員の皆様のご意見を賜りたい。
（第2回政府出展懇談会で議論）

■ 意見の概要及び対応方針について

テーマ（案）について

- ・「めぐる、かもす、縁起、環世界、つながり」のようなキーワードがニュアンスとして入れれば良い。
- ・「活力や活性化、生命力」、さらに、キーワードには難しいが、「生者と死者の交流」など、強めなものがあったも良い。
- ・「調和、融合、統合、総合」とあるが、そこに必要なのは「集約」という概念。
- ・循環ということも重要。そういう言葉が一番上にほしいし、「自給・自尊・自立」もキーワードとして入るべき。
- ・農水省の政策では、「生産」がキーワードになっているが、国交省は「生活」が中心となっている。生産や生活に、「生命」という言葉を追加し、命の問題やバイオフィリア、トポフィリアなどもほしい。
- ・国際的な博覧会と考えたときに、日本語がどのような英語、多言語的な表現になるかを冒頭から考慮すべき。

- ・ 委員ご指摘のキーワードも踏まえ、素案をもとに、英語表記も含め、テーマについてご議論賜りたい。
(第2回政府出展懇談会で議論)

2. 政府出展の空間・展示のあり方 について



意見の概要及び対応方針について

展示要素について（懇談会での意見）

- **小規模農業**のようなものが1つのテーマとなって、新しい生命、生産につながるような政府出展があっても良い。

- 都市のグリーン化により、**都市を住みやすい場所にし、その中に農もあるという考えが必要。**
- 住まい、暮らし、食といった**等身大の暮らしと繋がるような農と園芸の姿**を世界に見せられないか。2項対立でない自然との付き合い方、暮らしとつながるような、その知恵を示せるように実現してほしい。
- ただ単に公園をつくるだけではなく、**暮らしを体現するような空間**ができるととても面白い。

- 5年後を見据えて、進化するものと廃れていくものを意識して出展してほしい。具体的には、**日本の自然と技（竹細工など）、国内在来種、園芸栽培技術、グリーンインフラ**として30 by 30を見せるとともに**みどりの食料システム戦略**も見せていくこと。**サーキュラーエコノミーとVR**も見せていきたい。

- 検討会（農水分野）において、農業をテーマとした展示を企画する際に、他のコンテンツとの関連の中で、どのような規模の農業を念頭におくか検討する。

- 生活と生産の場の混在を可能にする都市空間における農業については、日本の特色でもあり、展示要素の1つとして、具体的な展示方法を検討していく。また、政府出展の構成要素に「明日の暮らし」を掲げており、等身大の暮らしの空間の中で、花やみどりとの新たな付き合い方を提示する方向で検討する。（資料3）

- 廃れていくものについては、「日本の自然観」を構成要素とした展示の中で表現する方向で検討する。
- 進化していくものとしては、みどりの食料システム戦略等を含む「サステイナブル」と「ウェルビーイング」を政府出展のテーマの要素として展示の中で表現する方向で検討する。

■ 意見の概要及び対応方針について

展示要素について（懇談会での意見）

• 農水省の**みどりの食料システム戦略**や国交省の**グリーンインフラ**が2027年にどうなっているか意識して展示をしていくのが一番。

• グリーンインフラとみどりの食料システム戦略に係る展示については、2027年時点で提案すべき展示内容となるよう検討する。

• 農業を考えるときには、食から入らないと消費者や生活者は関係なくなってしまう。**食から入って農の大切さを理解してもらう**、そうすれば環境もよくなる。

• 農業を理解していただく上で、食に関する展示を行うことについても検討する。

• 流域治水という言葉もあるが、気候変動の中で大事。

• 流域治水については、展示要素の1つとして、具体的な展示方法を検討していく。（資料3）

意見の概要及び対応方針について

展示手法について（懇談会での意見）

• **花の捉え方**として、一番大切なのは、**人間の生命力を活性化させる意味**があるということ。また、**生者と死者の世界の交流、つなぐ役目**としての花が基礎としてあった。そういった自然観というものを表現し、日本の伝統文化、祭事というものを表現できればと思う。

• **生物多様性**については情緒的にしか国民の理解が進んでいないと感じている。例えば、花が咲くことについては、どういうバイオフィジカルなメカニズムがあるのか、また、この地区の生物多様性を語るような調査を事前に行い、どういう関係があるのかを体験できるようなことが出来たら良い。

• 成熟社会として、**領域を超えて、プロダクトやライフスタイルも皆一緒と捉えることが大事**。

• **メタバース空間等の新しい技術を活用**して、博覧会で伝えたいことを共感として感じてもらうことが重要。

• 日本の自然観に係る展示の中で、日本の伝統文化・地域の祭事等の展示のあり方について検討する。

• 日本の自然観に係る展示や持続的な農業に係る展示の中で生物多様性への気づきが得られるように検討する。

• 屋外・屋内はもとより、全ての展示物で1つのテーマを表せるよう展示のあり方を検討する。

• メタバース空間等の多様な参加形態については、会場全体で進めることとしているため、政府出展においても合わせて検討していく。（基本計画の空間計画への反映を検討）

意見の概要及び対応方針について

その他（懇談会での意見）

- 公園内で庭園や園地ができる場所で、**仮設で出展物を建設した後に、閉幕後に都市公園事業で作り直すのはもったいない。**

- 場所については、**出展形態（一体型、分離型）の検討**をいただきたい。

- 今回の政府出展のコンセプトは、多くの国民や市民が深く関わる。**国民全員が参加できる仕組み**がほしい。

- 気候変動、カーボンニュートラル、ワンヘルス、カーボンフットプリント、バイオダイバーシティなどは大学の得意分野であり、大学との連携等の配慮も検討いただきたい。

- 入場者数ではなくて、**訪れた人々がその場所で何を感じたのかを把握することが大切。皆が何を考えたのかを可視化**することで広がる可能性がある。

- 整備にあたっては、横浜市や博覧会協会とも密に調整し、可能な限り廃棄や再整備が生じないように検討する。（基本計画のレガシー計画への反映を検討）
- 出展は、屋内・屋外の展示を一体的に会場東側エリアで行うこととする。

- 資料3において、政府出展のターゲットを幅広く設定するとともに、各参加者が展示内容を理解できるように、デジタル技術等を駆使する。（基本計画の展示計画・広報計画への反映を検討）

- 具体の出展を企画する際は、学術・研究機関や関連業界などとの連携も視野に検討する。（基本計画の広報計画への反映を検討）

- 政府出展は、来場者の気づきの機会となることを目的としている。併せて、デジタル技術等を活用した、来場者の意識の把握・可視化の可能性も検討する。

■ 意見の概要及び対応方針について

展示要素について（検討会での意見）

- 博覧会は、**会場でどれだけその対価を楽しめるか**というもの。**1つインパクトがあるもの（キラーコンテンツ）を展示すると印象に残るし、現物だと話題性が作れる。**
- 日本政府が抱える問題だけでなく、**そもそも日本という国は何だということを発信することも必要。**
- 具体の出展を検討するにあたり、**日本の自然観や自然との共生が具体的にどういうものなのかをしっかりと議論していくことが必要。**
- 園芸や盆栽のように、**自然界に対して人間が作り込んで開発や品種改良をしてきたという、人と自然との関係が非常に多岐にわたるということが日本の自然観と**感じている。
- 大規模農業だけでなく、**小規模農業も**今後は必要だということを伝えていくことは一つのミッション。
- 欧米では、仕事としての農業と市民がボトムアップで取り組む農的な活動が明確に分けられているが、日本では体験農園に代表されるような、その中間に位置する活動が多くある。**様々な農の在り方というグラデーション**を見せられるのではないか。
- **みどりの食料システム戦略は、小規模農業における持続可能な食料生産システムであり、環境と生産性の両立がポイント。スマート農業の日本モデル**により、食料安全保障の強化やSDGsを内包した展示ができると考える。

■ 意見の概要及び対応方針について

展示要素について（検討会での意見）

- **和歌**は、自然と人間の営みとの関係を表している日本固有の文学的表現であり、日本人には和歌のような価値観もあると思っている。
- いけばなは、花の命を預かってやるという考えがあり、いけばなを通じて**命の大切さ**を伝えられるとよい。
- 生活との関わりは、**節句**により文化・季節ごとの花のイメージを伝えられると良い。
- 農水省と国交省で一緒にやっていく上で、**花や緑のある居住空間**を見せることができるのではないか。
- **棚田や里山**は、景観として重要。里山を通して、人間文化と自然が調和を伝えていければと思う。
- **デジタル空間で、栽培や農業経営の体験**をしてもらい、データ駆動型の農業で若い人にかっこいい農業を示したい。

意見の概要及び対応方針について

展示手法について（検討会での意見）

- PLATEAUのような都市データでは、自然はおざなりにされやすい。本来、自然はとても解像度が高い世界。人間は地球（マクロ）や細菌（ミクロ）の世界になかなか目が行かないが、**デジタル技術を使えば、マクロからミクロを横断するような強度の高い体験が可能**になる。
- 日本の自然観を整理し、それを強く体験していただくようなものができれば大成功。**体験時間と人数に加え、「体験の強度」をどう作っていくかが重要**。
- お金を使っただけということではなく、使うほど楽しかったということ。**見ることに意識が向きがちだが、触れる・食べる・飲む・聞く・嗅ぐ、といった様々な角度から五感を刺激して、楽しむ場にできると良い**。
- **農の大切さを感覚でアピールするには体験が必要**で、体験することで日本の農業を面白いと感じてもらえる人を育てられるのではないかと。
- 展示そのものを1つの循環型の都市国家のようなイメージ（箱的にならない）とし、**可能な限り有機的な素材で構成**しつつ、残すものは、横浜市の農業や花き産業の推進につながるものとなればよい。
- Z世代のかわいいは、優しさ、誠実さ、仲間思いというものがある。**無駄なエネルギーは使わず、できるだけ嘘のない形で見せることが重要**。
- 体験はあってもよいと思うが、博覧会に来てお金を払って長時間体験するかという疑問。**1つの風景として農園の中に子どもがいるということを見せるという形でも良いのではないかと**。
- **ハレの部分を見せて、居心地のよい空間をつくれれば良い**。

■ 意見の概要及び対応方針について

出展場所・形態について（検討会での意見）

- 土地利用の観点では、**自然立地や植生に即したデザイン**をしていくことが一番サステナブルな方法。政府出展だけでなく、会場全体や、将来の公園計画の中でも、水系や自然をどうしていくのかというコンセプトをある程度共有しておかないと、建前になりかねない。**政府出展と外との関係性を含める必要がある。**
- 上瀬谷は現状で美しく、何も無いほうが良いのではないかと感じてしまう風景が広がっている。**あまりエネルギーを掛けずに、場が成立しそうな雰囲気**の所であるため、**どう関わっていくかが大事。**
- 政府出展は、**施策等が複雑に絡み合った展示で、理解が難しい側面**もある。その中で、**どういう人がどのくらいの滞在時間で展示を見るのかという観点で計画を考えていくことが一つのキー**になる。
- 一言で**自然**といっても、**自然に囲まれている地域の人と、都市部の人にとっての自然は全く意味が違う。**今回の来場者をイメージする時に、**どちらに絞り込むのかを検討する必要がある。**いかに都市の環境が不自然なのかというところに気付いてもらうきっかけになれば、それだけでも大きいのではないかと思う。